

平成二十七年卒業式 式辞

本日ここに、平成二十七年、学部第六十四回並びに大学院修士課程第六十二回学位授与式を挙行しましたところ、岐阜市長 細江 茂光様、岐阜市議会議長 竹市 勲様、岐阜大学学長 森脇 久隆様はじめご来賓の皆様方には大変ご多忙にも拘わらず、ご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ただいま、39名の大学院修士課程修了生に修士（薬学科）の学位記を、また、学部卒業生のうち、薬学科79名に学士（薬学）を、薬科学科56名に学士（薬科学）の学位記をそれぞれ授与いたしました。

皆さん、修士修了、そして学部卒業、本当におめでとうございました。岐阜薬科大学に入学され、本日を迎えるまでには楽しいこと、うれしいこと、つらいことなど様々あったと思いますが、皆さんのこれまでのご努力に対し、心より敬意を表する次第であります。

皆さんは、今日、岐阜薬科大学を巣立ち、医療の現場や医薬品の研究・開発の分野、あるいは基礎研究や行政の分野等様々な分野で、薬学を活かし活躍されますが、常に岐阜薬科大学の卒業生であるという誇りを持って頑張ってください。このような皆さんの門出の姿を間近に見ることは、私ども、岐阜薬科大学関係者一同にとって、この上もない大きな喜びであります。

また、ご列席いただいておりますご家族の皆様方におかれましても、そのお慶びは、ひとしおのものと、心からお祝い・お慶びを申し上げます。

さて、皆様方が進まれる薬学の分野は、今、大きな変革・改革が求められております。

まず、医療・健康の分野におきましては、日本人の平均寿命は男性が80.5歳と世界第3位、女性が86.83歳と3年連続世界第1位であり、健康寿命も男性が71.11歳、女性が75.66歳と、共に世界第1位となる等、世界でも類を見ない超長寿社会、高齢化社会を迎えており、こうした中、医療の高度化や、医療費の高騰に伴う社会保障制度の見直しなどを背景に、健康寿命の延伸を図るため、在宅医療も含めた最適な薬物療法の提供、セルフメディケーションの推進、地域包括ケアシステムの構築などが進められております。そして、これらを適切に推進するため、病院等医療機関等においては、チーム医療の中で、がん専門薬剤師等「高度専門薬剤師」が、また、市中の薬局においては地域包括ケアシステムを推進するための「かかりつけ薬局・薬剤師」など、「薬の専門家」としての薬剤師への期待が一層大きくなっております。

こうした中で、自分は何をすべきかを常に自問し、日々研鑽していただきたいと思っております。

また、医薬品の研究・開発、創薬と呼ばれる分野におきましては、1950年代から1990年代の後半にかけての、いわゆるブロック・バスターと呼ばれる圧倒的な売り上げを誇った大型の新薬が次々と世に出た輝かしい時代を経て、現在は新薬の開

発が鈍化し、また多くのブロック・バスターは特許期限を迎えており、国においても医療費を抑制するため、後発医薬品いわゆるジェネリック医薬品の普及に力を入れていく現状であります。しかし、国民の健康を守るためには、さらなる新薬の開発は必要であります。新薬開発には、医薬品の安全性を証明するために大規模な臨床研究が求められており、そのためには多額の費用が必要のため、製薬企業にとっては医薬品の開発そのものを断念することにも繋がる大きなリスクがあります。このリスクにどのように対応するか、基礎研究を含め、医薬品の研究・開発の分野に進まれる皆さんには、大変困難な仕事ではありますが、反面、やりがいがある仕事であります。高い志を持って、岐阜薬科大学卒業生としての存在感を示すべく努力してほしいと思います。

いずれにしましても、社会に出られたら、今まで以上に勉強し、楽しい人生、素晴らしい人生を歩んでいただきたいと思えます。社会で仕事をする上で「人と付き合う。交わる」場合の心構えを私の経験から一つの言葉を送りたいと思えます。それは、中国の処世訓の最高傑作であります「菜根譚」の言葉であります。菜根譚には、「世の中を渡って行くには一步を譲る気持ちが大切である。一步を退くのは、のちのち一步を進めるための付線となる。人を待遇するのに少し寛大にする心がけが望ましい。他人に利を与えるのは、実は将来、自分を利するための土台となる。」という言葉があります。これから長い人生の中で、また、仕事をする上で、多くの人と付き合い、交わることとなりますが、「少し譲ること、少し緩やかに対応すること、それが結局は人との関係を良好にし、自分の人生を前に進めること」になると思います。

皆さんは大きな可能性を持っています。自分自身の可能性を信じ、岐阜薬科大学の卒業生としての誇りを持って頑張ってください。

私ども岐阜薬科大学の教職員一同は、本日、自信を持って、みなさんを社会に送り出すことができることに、大きな喜びを感じております。

どうか、健康に十分ご留意され、大いに活躍されることを祈念しております。最後に、卒業後も母校岐阜薬科大学のさらなる発展にご協力いただくことを願っています。私のお式辞とさせていただきます。

平成二十八年三月十二日

岐阜薬科大学長

稲垣 隆司